



林業普及現地情報  
2020-13号(通算370号)  
令和2年11月30日  
沿岸広域振興局農林部  
記述者 田島大

## 釜石・大槌意欲と能力のある林業経営体等勉強会(「KOI勉」)の開催について ～ 山に恋して、仕事に恋する勉強会 ～

### 1 はじめに

釜石地方では、意欲と能力のある林業経営体(以後、「経営体」という。)に4事業体が認定を受けています。

今回、経営体相互の関係強化を図るとともに、情報共有や意見交換等を通じて、地域林業の課題解決につなげていくため、令和2年11月20日(金)に、4事業体から5名、農林部から4名の計9名が参加し、釜石・大槌意欲と能力のある林業経営体等勉強会(「KOI勉」)を開催しました。

### 2 勉強会の内容

第1回目となる今回は、次の3つのテーマについて意見交換を行いました。

#### (1) 登録申請内容の状況について

経営体の登録申請時に、今後取り組むとした内容について、現在の取組状況や、実現に向けた課題について現場の悩みなどを話し合いました。

各事業体とも、経営体としての高い自覚をもって、日々の業務を進めていました。

#### (2) 低コスト造林について

経営体が将来に亘って安定して仕事を続けていくためには、再造林の促進による森林資源の循環利用が必要であり、経営体は、「伐ったら植える」というサイクルを回していくことの重要性を強く認識しています。

このため、森林所有者と交渉する際、再造林の実施を働きかける材料とするため、

平成26年に本庁森林整備課がまとめた「岩手県低コスト再造林事例集」を教材にコストをかけない造林手法を勉強しました。

参加者からは、「山主と交渉するためにもしっかりと知識を持たなければいけない」と前向きな発言がありました。

#### (3) 林業技能者の育成について

林業従事者の定着とスキルアップ、作業の安全確保を図るため、フォレストワーカーなどの研修により、林業技能者の育成を進めていく必要があります。

「必要性は理解しているものの、コロナウィルスの影響により技能者育成にまで目を向けられなかった」という事業体もありましたが、「今後は、若い人材を採用して技能者育成を目指したい」という力強い発言がありました。



### 3 今後の対応

勉強会後のアンケートで、今後の勉強会テーマについての希望が出されたことから、今後も機会をとらえながら勉強会を継続していきます。